

可茂農林事務所の普及活動状況 令和7年3月末現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■みのかもファーマーズ倶楽部 GAPをテーマに研修会を開催～持続可能な農業経営を目指す～

みのかもファーマーズ倶楽部（会長：吉田圭吾氏）は、美濃加茂市内を中心に近隣市町村も含めた若手農業者や就農希望者相互の連携・情報交換・資質向上を目的に、多品目にわたる農業者・関係機関で構成された団体であり、年間を通じてテーマを決め研修会を開催している。今年の研修テーマは「GAPを活用した農業経営改善」。講師など可茂農林事務所へ支援依頼があり、農業経営課と連携し対応した。

3月10日に第1回研修会が開催され、会員・関係者含む26名が参加した。初めに、農業経営課の革新支援員を講師に、「GAPとは？」を丁寧に説明。その後、農作業の写真を見ながら意見交換し「リスクの洗い出し」を行った。最後に、各自で農作業中に潜む危険を探す練習を行い、見つけたことを発表。「リスク評価」の手法を学んだ。

4月以降、定期的に研修会が計画されており、会員それぞれの農業経営のリスク低減につながるよう、引き続き支援する。



【研修会・意見交換の様子】

（地域支援第一係）

■青年農業者・4Hクラブ 令和7年度総会に向けた活動支援

可茂管内の若手担い手組織である可茂地区青年農業者会と可茂地区4Hクラブは、例年4月に総会を開催しており、資料の作成や日程調整等を支援した。農林事務所では総会開催に向けて、各会長と次年度役員案を協議し、今年度決算に向けて適正な予算運用が行われていることを確認、次年度の事業計画案についても検討した。

また、次年度から新たに2名が4Hクラブへ加入することになり、それぞれを訪問して活動内容について説明を行った。新規加入者は、世代が近い生産者との交流の場を広げられることに期待を持っており、今後の活動に意欲的な様子であった。

農林事務所では、次年度も両組織会員のスキルアップや交流に繋がる活動を支援していく。

（地域支援第二係）

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■夏秋なす 新規就農者が3S栽培に取り組み

夏秋なす栽培では土耕栽培において土壌病害を回避するため、毎年ほ場を移す必要がある。岐阜県中山間農業研究所は土壌病害を回避し、固定したほ場で栽培が続けられるよう3S（ナス科果菜類隔離型少量培地耕）システム栽培を確立し、各産地で普及している。

みのかも夏秋なす部会（会員15名）ではこれまで3名がこのシステムにより夏秋なすを栽培している。令和6年に夏秋なすで新規就農された1名（美濃加茂市）も、初年度に土耕栽培で年間管理作業を修得し、その後3Sシステムを施工、7年度から3S栽培に取り組み始め



【完成した3S栽培ほ場】

た。

農林事務所では、夏秋なす3Sシステム栽培者への栽培管理及び新規就農者の経営安定を支援していく。

(地域支援第一係)

■ナシ 総合的病害虫管理技術の確立に向けての取り組みを全国で報告

3月13日に(一社)全国農業改良普及支援協会が主催する全国農業システム化研究会IPM実証調査成績検討会が東京で開催された。この会には、7県の農業関係機関がIPM実証調査を報告し、検討を行った。岐阜県からは、ナシの総合的病害虫管理技術の確立にむけての実証調査結果を可茂農林事務所が代表して報告した。

美濃加茂市山之上地域のナシ栽培では、ハダニ類などの害虫に対して薬剤抵抗性により防除効果が劣りはじめており、令和6年に岐阜県と山之上果実農業協同組合が連携して取り組んだ化学農薬使用低減に向けた天敵利用の実証結果について報告した。使用した天敵はミヤコカブリダニで、6月に放飼した。その結果、慣行と比べて化学農薬の散布回数を2回減らすことができた。

農林事務所では、次年度も関係機関と連携して天敵利用の防除体系の確立に向けた調査研究を継続し、この技術の普及を推進していく。



【実証調査に使用した天敵資材】

(園芸産地支援係)